

令和元年6月12日現在

機関番号：32668

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K13094

研究課題名(和文) ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける予防・予測的機能に関する研究

研究課題名(英文) Study of Preventive and Predictive Function in Social Work Supervision

研究代表者

木戸 宜子(KIDO, Noriko)

日本社会事業大学・福祉マネジメント研究科・准教授

研究者番号：80386292

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)： ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける予防・予測的機能には、リスクの最小限化、不安や徴候の把握、問題対応の3つの次元があると整理した。この観点をもとに二つのタイプの教育プログラムを作成、実施した。一つはソーシャルワークの予防実践に焦点をあて、地域を基盤に潜在的ニーズの把握やスクリーニングのあり方を提示した。もう一つは、予防・予測的観点をもとにした福祉施設における事前対応的スーパービジョンのあり方を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける予防・予測的機能として、問題対応の前に、不安や徴候の把握という次元の存在があることを明らかにした学術的意義があった。それをもとに問題が発生する前の予防策として事前対応的スーパービジョンのあり方を提示し、予防・予測的機能に焦点をあてたソーシャルワーク・スーパーバイザー養成プログラムを構築した。これにより地域包括ケアシステムにおける実践者の予防的支援業務の遂行を推進する社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)： The preventive and predictive function in social work supervision includes 3 dimensions of risk reducing, anxiety and indication catching, problem solving.

2 educational programs were produced and used; the preventive practice including latent needs catching and screening in the community, and the advanced supervision based on the preventive and predictive viewpoints in welfare facilities.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワークスーパービジョン 予測的機能 徴候把握 予防枠組み 示唆的予防策

1. 研究開始当初の背景

ソーシャルワーク実践のあり方として、起こった問題に対する援助や支援から、地域包括ケアシステムの展開において介護予防、孤立予防、虐待防止などの予防的アセスメントや支援へと移行してきた。しかしながら実践者にとって予防的支援とは問題解決や状況変化のような明確性がなく、効果を自覚することが難しい。実践知を十分にもたない初任者にとっては状況展開を予測した予防的支援は困難である。経験のある実践者も社会情勢が大きく変化する中では新たな役割変更を伴う。実践者が地域包括ケアシステム、福祉組織の一員として効果的に機能するためには、スーパービジョンによるバックアップが必要であり、スーパーバイザーにも状況を予測的に捉え、予防的に対応する姿勢をもつことが求められてきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステムの展開において求められる予防的実践をさらに推進し、成果・効果を高めるために、実践者をバックアップするソーシャルワーク・スーパービジョンにおいて、予防・予測的機能の必要性、適用性を明らかにすることである。従来、管理的、教育的、支持的の3つの機能を中心に展開されてきたソーシャルワーク・スーパービジョンに対し、予防・予測的機能という新たな機能に注目する。特に福祉人材育成や離職防止の観点からも、問題が発生する前のスーパービジョンを提示する。

3. 研究の方法

- (1) 予防についての理論・概念研究（平成27年度）
- (2) カナダ・モンリオールにおけるフィールド調査、およびモデルとなるソーシャルワーク・スーパーバイザーへのインタビュー調査（平成27～29年度）
- (3) 予防についての理論・概念研究、およびモンリオールでの調査結果をもとに、教育プログラムの作成と活用（平成28～30年度）

4. 研究成果

- (1) 予防についての理論・概念研究として、保健学・公衆衛生学領域の予防概念をもとに、地域を基盤としたソーシャルワークにおける予防活動の理論的枠組みを検討し、実施上の課題を探った。予防活動の目的・成果と方法を軸とし、それらの要素の相互作用を捉える理論的枠組みにおいて、ソーシャルワーク理論アプローチの位置づけを考察し、予防活動への適用性を検討した。

その結果、ソーシャルワーク理論アプローチのアセスメント視点は第二次予防レベルのみならず、第三次、第一次予防レベルにおいても適用性が高いことが明らかであった。また予防活動実施上の課題として、総合的な評価枠組み構築の必要性、状況変化予測、徴候把握の方法論の必要性が示された。

(表) 地域を基盤としたソーシャルワークにおける予防活動の要素の相互作用

方法	第二次 対応・介入 専門的集中的対応 ミクロ(個別)	第三次 フォロアアップ 定期的対応 メゾ(集団・組織)	第一次 啓発・体制づくり 開発的対応 メゾ・マクロ(地域社会)
目的・成果			
第二次 問題解決・改善 問題発生時 治療モデル	ミクロレベルの問題 解決・改善	メゾレベルの問題改善状況の維持・確認 安否・安全確認 モニタリング	メゾ・マクロレベルの地域活動の問題にとりくむ サロンの活動力の活用
第三次 問題の悪化防止 問題対応後 生活モデル	ミクロレベルの問題悪化防止 モニタリング・ニーズキャッチ	メゾレベルの問題悪化防止体制 サービス提供・ケアマネジメント・予防ケア	メゾ・マクロレベルの問題悪化防止力の維持・継続 ネットワークの組織化・福祉教育
第一次 問題発生の減少 問題が起こる前 ストレングスモデル	ミクロレベルの問題発生防止状況の把握 スクリーニング・アセスメント	メゾレベルの問題発生前状況の維持・強化 見守り・経過観察・リスクマネジメント	メゾ・マクロレベルの問題発生減少 啓発・教育・開発・福祉計画の体制構築・推進 エンパワメント

- (2) カナダ・モンリオールにおける高齢者虐待予防実践に関するフィールド調査を行った。モンリオールのキャベンディッシュ地区では先駆的な取り組みが行われており、ニーズキャッチから介入、継続的支援にわたる地域支援体制、予防的アプローチとして住民教育・啓発、早期発見・スクリーニング、リスク要因への対応、エンパワメントの要素が含まれていることが明らかになった。特に潜在的ニーズ、徴候やリスク要因に注目することは、事前からの対応策、深刻化を防ぐ方策として意味があると考えられる。

また同地区において、モデル的なソーシャルワーク・スーパーバイザーへのインタビュー

調査を行った。責任を伴う組織レベルの範囲で行われるスーパービジョン体制に注目し、ソーシャルワークの予防的支援の困難さに対応し、支援の迅速化を図り、実践者をバックアップする上で予測的機能に必要な要素を探った。

その結果、ソーシャルワーク・スーパービジョンの予防的機能には、1) リスクの最小限化、2) 不安や徴候の把握、3) 問題対応の3つの次元があると整理することができた。また予測的機能に着目したスーパービジョン体制に必要な要素として、1) 事前対応ならびに要請に基づくスーパービジョンの適宜活用、2) 徴候把握と予測的対応、3) スーパービジョン体制の明確化を明らかにした。スーパービジョン機能をみると、中核には管理的機能があり、リスク防止のための教育的機能、倫理的ジレンマを扱う際の支持的機能が発揮されることが確認できた。

- (3) 予防的・予測的視点をもとに、二つのタイプの教育プログラムを作成し、国内の福祉施設・機関における専門職研修を実施した。一つはソーシャルワークの予防実践に焦点をあてたもので、問題解決・対応モデルと早期対応・支援モデルとを比較しながら、地域を基盤に潜在的ニーズの把握やスクリーニングのあり方から予防実践を理解する内容で、ソーシャルワーク実践における予防・予測的観点の必要性を確認することができた。

二つめは、スーパーバイザー養成を目的とするもので、事前対応的スーパービジョンのあり方を提示した。日常対応的、問題対応的スーパービジョンのあり方と比較しながら、福祉施設において起こりうる状況変化や徴候把握に焦点をあて、事前対応の必要性を理解する内容である。

また福祉施設の管理者を対象にスーパービジョンを実施し、予防・予測的観点をもとにした事前対応的スーパービジョンの導入を図った。管理職としては、業務状況の予測、リスク状況や徴候の把握に注意を向けることに役立ち、スーパーバイザーとしての役割意識化がなされたといえる。また事前の業務計画の確認は、実施する職員にとっては業務行動の自覚、成果の見積もりをもつことになり、業務の保証につながる。ひいては事前対応による実践現場のリスク減少を図ることにもつながると考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 木戸宜子「地域を基盤としたソーシャルワークにおける予防活動枠組みの構築 —対人支援理論の活用を求めて」(2016年 日本社会事業大学研究紀要(62), p5-15.)
- ② 木戸宜子「モントリオールにおける高齢者虐待へのとりくみから学んだこと」(2016年 社会福祉研究所所報(90), p1-10.)

[学会発表] (計 1 件)

- ① 木戸宜子・大賀有記・小原真知子・福山和女「ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける予防・予測的機能に関する研究 —モデル構築に向けて—」(2017年 日本社会福祉学会第65回秋季大会)

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：大賀有記

ローマ字氏名：OGA yuki

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：教育福祉学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：30708748

研究分担者氏名：福山和女

ローマ字氏名：FUKUYAMA kazume

所属研究機関名：ルーテル学院大学

部局名：総合人間学部

職名：名誉教授

研究者番号(8桁)：20257083

研究分担者氏名：小原眞知子

ローマ字氏名：OHARA machiko

所属研究機関名：日本社会事業大学

部局名：社会福祉学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：50330791

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。